

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします。

播磨町 むかし昔

その七 『播磨国風土記』の荒ぶる神①

『播磨国風土記』を始め各地に残る風土記には、地名説話というかたちで

実に多くの神々が登場しています。この中には、交通を妨害するなど様々な荒ぶる神もいるのです。賀古郡鴨波里

舟引原の条の地名説話「この里に舟引原あり。昔、神前の村に荒ぶる神あり

て、毎に行人の舟を半ば留めき。ここに、往來の舟、悉に印南の大津江に留

まり、川頭に上り、賀意理多の谷より引き出でて、赤石郡の林の潮に通し出

しき。故れ、舟引原と曰ふ。」は、まさに神前（播磨町古宮の神作が比定

地）に鎮座した荒ぶる神に係る出来事なのです。

もし、あなたが荒ぶる神に出会ったら、どんな対応をするのでしょうか。これらを鎮めるために捧げものをして、もてなしますか。それとも避難する方法をとりますか。本号からは、こ

うした風土記の中の荒ぶる神を祀る記事を見ていきましょう。

さて、船引原に関連した説話が、揖保郡枚方里佐比岡の条にも見られます。出雲の大神が神尾山に坐し、ここ

を通る出雲国からの旅人の10人ならば半ばの5人を、五人なら3人を捕えて殺害した。そこで、出雲国の人たちが

佐比（鋤などの鉄製品）を作って神祭りを行ったが、どうしても和らがない

った。その理由は、（この地に出雲の）比古神が先に来て比売神は後から追っ

てきたところ、男神はこの地に鎮座せず去ってしまったので、女神が怒み怒

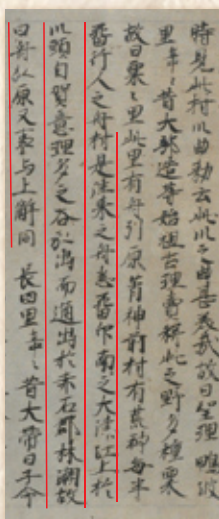
って、荒ぶるようになった。その後、河内国茨田郡枚方の里の漢人がこの

山麓に移住してきて敬い祀り、ようやく和ませることができた。佐比を作

って祀った所を、佐比岡と名づけたという事です。ここでは、荒ぶる神を鎮

【問合せ】 播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂
☎ 079 (435) 5000

天理大学所蔵三条西家本
『播磨国風土記』
賀古郡鴨波里舟引原の条（複製）
姫路文学館提供



めるための一方法に、佐比の供献が行われたという注目を促す。さらに、荒ぶる神の記述が神前郡埴岡里生野の条にも見られます。このように、風土記に書かれた荒ぶる神のイメージは、「祟り」として通行者の半数を殺害したり、留め置くという特徴を持つています。そして、最終的に神祭りを受けて、和らぎ鎮まる訳です。なお、祟りには疫病や災害の場合もあったようです。

町の人口 9月1日現在

住民基本台帳人口（ ）は前月比

34,772人(+18人)

男…17,008人(+8人)

女…17,764人(+10人)

世帯数…14,383世帯(+17世帯)